野生鳥獣による被害を防ぐ

―共に生きるために―

共存共栄

Coexistence and co-prosperity

野生鳥獣による農作物などの被害が全国的に広がり、社会問題となっています。
北海道全域でもさまざまな野生鳥獣による農作物被害などが発生しています。
共に生きるためにどのようなことができるのでしょうか。

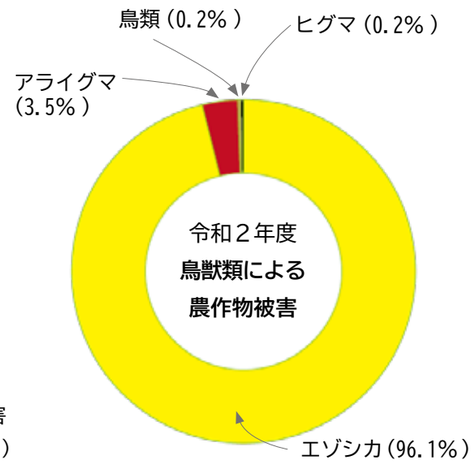
農作物などの被害状況

令和2年度の町内における農作物被害総額はヒグマ19万1千円、エゾシカ1億292万6千円、アライグマ375万4千円にも上ります。農家の方が作ったお米や野菜などを食い荒らしてしまうことで、農業への意欲を失い、農業を続けることをあきらめてしまう方もいます。そして、生息域が拡大して、さらに被害が拡大する悪循環を生むこともあります。

■鳥獣類による農作物被害額の推移　　単位：千円

	H28	H29	H30	R1	R2
ヒグマ	72	0	0	0	191
鳥類（カラスなど）	1,682	492	245	277	211
アライグマ	6,012	6,600	4,972	3,881	3,754
エゾシカ	124,197	111,919	104,030	99,778	102,926
計	131,963	119,011	109,247	103,936	107,082

ヒグマによる食害
（デントコーン畑）
※静内豊畑



令和3年度の人身被害（道内）… 11人

- 死亡 … 3人
  - 4月　厚岸町　山菜採り
  - 7月　福島町　畑作業
  - 7月　滝上町　登山旅行
- 負傷 … 8人
  - 4月　富良野市　ハンター
  - 6月　厚岸町　林内作業
  - 6月　札幌市　歩行中など（4人）
  - 8月　津別町　畑作業（2人）
- その他
  - 6月　羅臼町　飼い犬3匹が襲われる
  - 7月　厚岸町　放牧中の乳牛が襲われる

過去最多の死傷者

これまで昭和39年の死傷者8人が過去最多でしたが…

令和3年度の人身被害（町内）… 0人

4月～7月末　目撃件数　30件
山間の採草地や放牧地での目撃のほか、海岸近くの住宅敷地付近で足跡なども発見されています。
詳しくは、町公式ホームページをご覧ください。

ヒグマ（クマ科）

体長　2.5～3m
体重　250～500kg

日本に生息する陸生哺乳類で最大の種。食性は雑食で、フキを中心に、ウドやイラクサなど植物の若葉、ヤマブドウやドングリなどの果実や木の実のほか、川を遡上するサケやシカなどの動物から、ハチやアリといった昆虫まで、季節に合わせて食します。また、牛などの家畜やその飼料となるデントコーンなど、農業被害も発生しています。一般的に冬期間は冬眠をしますが、最近は冬眠をしない個体も確認されています。

※写真：北海道提供

ヒグマによる人身被害

道内では、昭和37年から平成28年までの55年間でヒグマによる人身被害が136人、うち51人が亡くなっています。今年度は、クマによる死傷者が過去最多の11人となり、うち3人の方が亡くなっています。

また、新聞やテレビなどで報道された6月18日の札幌市東区の市街地にクマが出没した事件では、早朝、ごみ出しをしようとした男性が、自宅前でクマと鉢合わせになり、背中を爪でひっかかれるなど、4人の方が襲われて重軽傷を負いました。

町内では、幸い人身被害などは発生していませんが、4月からの4か月間で、30件もの目撃情報が報告されています。

ヒグマによる事故防止 !!

これまで「ヒグマは山奥に生息する動物」との認識でしたが、私たちの住んでいる場所のすぐ近くまで来ているもしれません。私たちがヒグマの被害者にならない一番の方法は**ヒグマに遭わないこと**です。

これから、キノコなど秋の味覚の季節になりますが、十分に気を付けて行動しましょう。

秋のヒグマ注意特別期間
9月4日(土)～10月31日(日)

- 一人で野山に入らない。
- 野山では音を出しながら行動する。
- 食べ物やごみを放置しない。
- フンや足跡などヒグマの痕跡を見たら引き返す。
- ヒグマが出没している場所で薄暗い時間帯に行動しない。
- ヒグマが出没している場所で犬の散歩はしない。

※犬が吠えることで、ヒクマが興奮する場合があります。

令和元年度の農業被害

道内

- 被害額…**38** 億円

野生鳥獣被害全体の約８割がエゾシカの食害となっています。現在は、捕獲活動などの成果もあり、平成 23 年度の 64 億円をピークに年々減少傾向にあります。うち、日高管内は４億６千万円です。

町内

- 被害額…約 **1** 億円

町内では、牧草ロールや水稲などへの食害が報告されています。

エゾシカ（シカ科）

体長　140 ～ 190cm
体重　70 ～ 150kg

北海道のみに生息するニホンジカの亜種で、国内最大の草食動物です。明治初期に乱獲などにより一時は絶滅寸前にまで生息数が減少しましたが、保護政策により、個体群を維持するまでに生息数が回復しました。高い繁殖力と生息環境の変化により、急速に分布域を拡大しながら生息数を増やし、その結果、農林業被害や交通事故の増加などのほか、採食などによる生態系への影響などがあります。

令和元年度の交通被害

道内　～ 3,188 件

車両とシカによる衝突事故などによる交通事故は、増加傾向です。このうち日高管内では 105 件発生しています。

町内　～ 16 件

主に道路を車両で走行中にシカと接触する交通事故が多く、令和２年は 15 件発生しています。

駆除計画・実績

町では、野生鳥獣による市街地での生活環境被害や農作物、畜産被害の軽減を図ることを目的に、ニホンジカ（エゾシカ）、アライグマ、カラス、ヒグマ、キツネ、タヌキを対象として、銃器、はこわな、くくりわなによる駆除計画を策定し実施しています。

令和元年度駆除実績

	計画	実績
シカ	4,500 頭	2,970 頭
アライグマ	600 頭	437 頭
カラス	400 羽	173 羽
ヒグマ	15 頭	1 頭
キツネ	120 頭	138 頭
タヌキ	—	190 頭

毎年２月に行われている有害鳥獣駆除員によるエゾシカの一斉駆除の様子

■共に生きるために

私たちの住んでいる新ひだか町にも多くの野生動物が生息しています。
地球温暖化による自然環境の変化や、人の居住区域の拡大による生活環境の変化、保護政策による個体数増加などの影響により、野生動物の一部が市街地に出てきて人とのトラブルになっています。
私たちは、自然環境の維持や農林水産業の発展、安心な生活環境の確保のため、やむを得ず鳥獣の命を奪うこともあります。しかし、同時に生態系の一員として、自然の微妙なバランスの中で生きていることを自覚し、動物を大切に思い、そのような命と引き換えに私たちの生活や社会が成り立っていることに感謝の気持ちを忘れないことがなにより大切です。
地域として、鳥獣の生息数を計画的に調整し、地域に生息する野生動物の情報を正しく理解し、適度な距離感を保つことで、互いに安心して安全に生活できる共生のとれた社会につながっていくと考えます。

農林水産業被害など（道内）

- 農林水産業被害

指が長く器用な前肢を持つため、メロンやスイカに穴をあけて中身だけすくい出して食べたり、トウモロコシも皮をむいて中身を食べます。また、ニワトリを襲ったり、養魚場の魚を捕食するなど、畜産業や水産業の被害もあります。

- 生態系被害

雑食性で特に小動物への影響が大きいと懸念されており、道内では日本固有種のニホンザリガニやエゾサンショウウオなどの捕食が確認されており、アオサギの集団営巣地の放棄もアライグマの影響とされています。

- 生活環境被害

人家の屋根裏や、廃屋に侵入し住み着くことがあることから、施設の破損や糞尿による衛生被害、犬や猫などのペットを襲う被害もあります。

農林水産業被害など（町内）

町内では、平成 19 年に静内豊畑地区で捕獲されたものが最初の個体とされています。
町内の被害状況は、減少傾向ですが、令和2年度で年間約 370 万円の農業被害が報告されており、町内の主要作物のミニトマトを中心に施設野菜などの被害が報告されています。

四肢とも長いら本の指がある。後足だけで体を支えて立ちあがることができる。

特定外来生物❶

アライグマ（アライグマ科）

体長　41 ～ 60cm
体重　4 ～ 10 数 kg

白色の顔に黒色系のマスクを着けたような外見で４～７の輪模様を尾に持つ。北米原産の動物で、ペットとして日本に輸入されて以降、逃げ出したり捨てられたりしたことで野生化。捕食対象は、小哺乳類から魚類・昆虫類、野菜・果実と非常に幅が広く、トウモロコシ、飼料、養殖魚、メロン、スイカ、イチゴなどへの食害や、牧草ロールやパックを破壊するなど、農林水産業被害も発生しています。手先が器用で成体には凶暴な個体もいます。

※写真：北海道提供

スイカに穴をあけて、中身をすくい出して食べたあと

※写真：北海道提供（道内での被害）

【用語説明❶】
特定外来生物とは、もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系などに被害を及ぼすものについて特定外来生物として政府が指定し、飼育・栽培・保管・運搬・販売・輸入などが原則として禁止されています。

はこわなの貸し出し

問合せ　三石庁舎水産林務課　33 - 2114（直通）
　　静内庁舎水産林務課　49 - 0301（直通）

アライグマの被害防止対策として「はこなわ」の貸し出しを行っています。アライグマの被害にあった方のほか、目撃例や足跡などの痕跡があった場合でも利用できます。利用を希望される方は役場担当窓口までお問合せください。なお、捕獲したアライグマは町の有害鳥獣駆除員が回収します。

高さ 30cm ×幅 25cm ×奥行き 82cm